

## 令和2年度第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和2年5月13日(水) 13:50~16:00

2 場 所 湖南高等学校 図書室

3 内 容

受 付 13:50~14:00

委 嘱 状 交 付 14:00~14:15

休 憩 14:15~14:25

学校運営協議会 14:25~16:00

(1) 開会のことば 遠藤潤教頭

(2) 校長あいさつ

新型コロナウイルス感染症によって、本日は3年生のみ登校日としています。今年度、協議会メンバーとして12名、事務局5名で構成し進めていきますのでよろしくお願ひします。保護者の協力を得ることはよくあるものの、地域の方々にご協力をいただく機会は少ないため、コミュニティ・スクール制度を活用してお力をいただきたいと考えています。コミュニティ・スクールとしての目標としては、生徒の安心安全な教育環境の実現や、地域に貢献できる生徒の育成を考えています。今年度は生徒の在籍は59名で、そのうち湖南町在住の生徒は7名である状況です。地元の生徒が少ない状況ではありますが、生徒を信頼される社会人に育成していきたいと思ひますのでご協力を願ひします。

(3) 出席者自己紹介

協議会メンバー

小山伝一郎氏、大内紀男氏、満田仁一氏、鈴木勝美氏、和田祐樹氏、薄良枝氏、富田弘氏、酒井祐治校長

事務局

渡辺延幸(事務長)、遠藤潤(教頭)、熊谷明彦(教務主任)、渡邊大典(生徒指導主事)、鈴木さゆり(進路指導主事・1学年担任)

(4) 会長、副会長互選

会長に小山伝一郎氏、副会長に満田仁一氏を選出。

(5) 協議

① 令和2年度学校経営・運営ビジョンについて(酒井校長)

小規模校としての強みを生かして地域密着型の取り組みを進めていきたい。これからの生徒の生きる力を伸ばすために教育活動を進めていく。生徒には3年間で湖南地

区の良さを理解して卒業して行ってほしい。今年度は主体性を育てるための学校づくりをしていきたいと考えている。

重点項目1「基礎学力の定着と向上」についての説明。

重点項目2「進路希望の実現」についての説明。

特に、地域の方に模擬面接や、企業の求める人材についての講話等をいただくなど、お力添えをいただくとありがたい。

重点項目3「人間性・社会性の育成」についての説明。

学校の取り組みとして、職員協議会を定期開催し、全生徒の情報共有を全職員で行っている現状がある。

重点項目4「開かれた学校づくり」についての説明。

「湖南高校だより」の湖南地域全戸配布の報告について。

学校の課題と地域の課題を、本校の教育活動を通して解決していきたい。

<質疑等>

薄 氏： 「KONAN」のロゴの使用制限についてはどう考えているか。スクールカラーとの関連についてどう考えるか。湖南小中はグリーン、湖南高校はブルーではなかったか。

熊 谷： 背景の色を変えながら各団体で使用できるようにしたい。

和田氏： 学校から発信してもらい、コピーライトの対応をして、ホームページで配布することも検討してほしい。

和田氏： 地域の方や有名人の方がおすすめする本のスペースを作れないか。本については寄贈してくれる人がいるかもしれない。自分に影響を与えた人がどんな本を読んだかどうかも生徒に影響を与えられるのではないか。一つの木箱でできる図書館のイメージはいかがか。

遠藤教頭： 今年度の非常勤司書の配置についての報告

和田氏： SNSでブックカバーチャレンジが話題になっている。

熊 谷： 読解力の育成として、朝学で読書をする機会を設けている。まずは活字に慣れさせようという取り組みとして今年度から始めた。

熊 谷： 学校から地域へできること、地域から学校に対してできることとして、次回以降に検討できれば良いのではないか。

## ② 開かれた学校づくりのための意見交換

薄 氏： 面接練習には積極的に関わりたい。高校3年生のスタート時点でもよい。社会人と係わる機会を設けるべきではないか。誰かのためにはたらくという意識を身に付けさせたいと考えている。会社に来てもらってインターンシップをすることもできる。

酒井校長： 地域の方が3年生のために来てもらえる場として図書室を利用すれば、図書室開放の利用促進につなげることもできるのではないかな。

小山氏： 湖南町文化祭に参加してくれる高校生、参加できる分野を広げるなど、実行委員会でも協議してみたい。人口が3000人を割っている現状で、地域行事に参加する子どもたちが減ってきている。活動を促進するためにも協議会で何かできるのではないかな。

満田氏： 湖南の子どもがほとんどいない事実はまさに地元が心配していること。地域の人にどうやって湖南高校を知ってもらおうかを考えるべきではないかな。

満田氏： ハードルを低く、近所のお茶飲みの場へ高校生の情報提供をするようなものからできればよいのではないかな。

大内氏： 町民体育祭に高校生が参加してくれればよいのではないかな。

小山氏： 町民体育祭への参加のように、小中高で地域一体となって参加できるような場の提供ができればよいのではないかな。

遠藤教頭： 学校に地域の人が入ってきやすくなるアドバイスをもらえないかな。

和田氏： 学校の課題を地域の人と連携して解決していくことが目標。住民アンケートで地域の人困っていることは明確化された。学校と地域の人がお互いに、困っていることや、自分ができることを共有できれば良いのではないかな。学校は学校として成り立っているように周りからは見える。しかし、困っていることがあると弱みを見せていった方が、我々は協力しやすい。地域の男性はおせっかいになりえない。自分の出番がないと出てこない。湖南高校だよりに「本が足りていません、面接官募集します」等の情報発信をしてくれると動きやすいのではないかな。

薄 氏 : 具体的に困っていることを発信してくれると助かる。新入社員が社会人としての責任感や振る舞い方を知らないことがある。その実情を高校生に伝えることで、高校生を育成していくことができるのではないかな。

遠藤教頭 : この場にいる方々も学校の教員と同じように学校経営・運営ビジョンに示す目標達成のために協力してくれる「応援隊」というような認識でいてよいか。

小山氏 : その認識でよい。

満田氏

薄氏

大内氏 : 生徒からどのような要望があるかを聞いてもよいのではないかな。

和田氏 : 地域に田んぼがこれだけ広がっているから稲作体験をしたいと思っても、行動する前に躊躇してしまったり折り合いがつかなくなったりする。そういったところでも協力してくれますか。

満田氏 : 農家の方はおおらかなのできっと協力してくれるだろう。

小山氏 : 卒業までに蕎麦づくりと蕎麦打ちができるようにすることや、モチ米作ってモチをつけるようにさせることなども貴重な学びになりえるのではないかな。

和田氏 : 湖南としてまとまっていきたい、開発していききたいという思いを実現させるために協力していきましょう。

大内氏 : 農産物に付加価値をつけて販売することについて（六次化）はどうか。

和田氏 : 商業科目を生かすことができるのではないかな。

熊 谷 : 生徒の約6割は商業系の科目を取っている。

和田氏 : 販売につなげることもできるのではないかな。

熊 谷： 売る場所の問題についてはどうか。

小山氏： J Aに話を通して郡山市内で販売することができるだろう。文化祭等で連携をして販売の機会を得ることもできるだろう。

和田氏： 探究学習のなかで、購買部をどうにかして設置できないかという要望が出てきた。地域としても買い物の不便さについては要望がある。湊の販売所の例もあるので、学校独自の解決策を見つけることができるのではないか。

大内氏： 面接に関連して、J Rは中途採用に力を入れている。

薄 氏： 会社が協力することで学べることが多いのではないか。

小山氏： 郵便局の様子など、地元の子が苦勞しながらも働いている生徒の姿が励みになる。

大内氏： 課題を抱えた生徒が社会に出て変わった事例もあるので、我々も変わるきっかけを作ってあげたい。

(6) 閉会のことば（遠藤教頭）

(7) 諸連絡（遠藤教頭）

次回の協議会について